

飛鳥資料館春期特別展から

「キトラ古墳壁画四神—青龍白虎—」

平成21年4月17日(金)～6月21日(日)

今年もキトラ古墳壁画の特別公開とそれに関わる特別展の季節が巡ってきました。5月8～24日に特別公開されるのは、青龍と白虎です。現在資料館では、特別展の準備として、泥に覆われてみえない青龍の推定復原をおこなっています。その過程で、いくつかのたいへん興味深い点に遭遇しました。今回は、そのうちの1点について述べます。

キトラや高松塚の青龍と白虎は、型紙を使って描かれているため、輪郭や細部表現が近似することが知られています。そこで、キトラ白虎をよく観察したところ、なんと、右側の前・後肢は3本指、左側のものは4本指であることが判明しました。あわてて、高松塚の青龍・白虎をみたところ、青龍の左前肢に爪を表現する4つの赤い点を確認でき、他はいずれも3本でした。さらに、類例を探したところ、平城薬師寺の本尊薬師如来台座の青龍もキトラ白虎同様、体側で指の本数が異なることがわかりました。

奈文研OBでもある山本忠尚・天理大学教授の研究では、中国の四神の指の数は3本が基本で、唐代の開元年間ごろから4本のものが現れるということです。どうやら指の本数は、四神図の年代観にも関わる重要な観察項目といえそうです。それにしても、キトラ、高松塚、薬師寺の四神にみられるこの不思議な現象をどのように理解すべきなのでしょうか。思い悩んでいるところです。

(飛鳥資料館 加藤 真二)



キトラ古墳壁画「白虎」前足

■ 記 録

埋蔵文化財担当者研修

○中近世城郭調査課程

平成20年12月11日～18日 29名

○報告書作成課程

平成21年1月14日～23日 23名

○寺院遺跡調査課程

平成21年2月2日～6日 16名

○生物環境調査課程

平成21年2月17日～25日 8名

現地説明会

○飛鳥藤原第156次(石神遺跡第21次)

平成21年2月14日(土) 1611名

平城宮跡歴史文化講座(第7回)

(NPO平城宮跡サポートネットワークと共催)

平成21年1月25日(日)午後1時30分～

於：平城宮跡資料館講堂

「聖武天皇の相次ぐ遷都」

小笠原 好彦 滋賀大学名誉教授

■ お知らせ

公開講演会(第104回) (開催場所は未定)

平成21年5月23日(土)午後1時30分～

於：平城宮跡資料館講堂

「古代火葬墓の世界」

小田 裕樹 都城発掘調査部研究員

「高床式建物を探る－出土建築部材と雲南の実例－」

黒坂 貴裕 都城発掘調査部研究員

平城宮跡資料館休館のお知らせ

平成21年6月1日～平成22年3月31日

平城遷都1300年祭に向けて改装工事をおこないますので、休館させていただきます。

■ 最近の本一所員の著作から

○松村恵司『日本の美術512 出土銭貨』

至文堂、2009年1月

○渡辺晃宏『平城京と木簡の世紀』(日本の歴史04)

講談社学術文庫、2009年1月

○城倉正祥『埴輪生産と地域社会』

学生社、2009年3月

編集「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.jp/>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2009年3月